

令和4年5月2日  
第583号

# 今月の技術

農政部 農業経営課

## 目次

気象災害等を踏まえた農作業のポイント	1
1 土地利用型作物	2
2 野菜	3
3 果樹	4
4 畜産	6

# 気象災害等を踏まえた農作業のポイント

## これまでの気象経過

### ◆ 3月下旬～4月中旬の概要

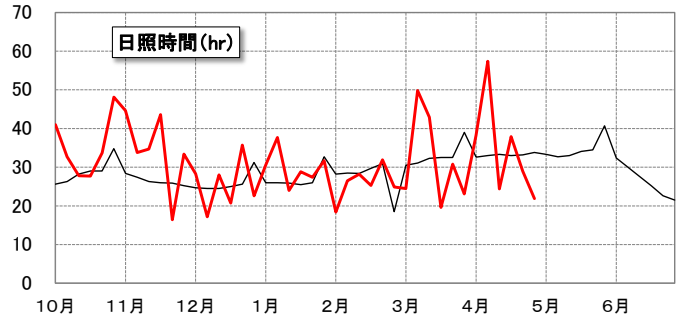
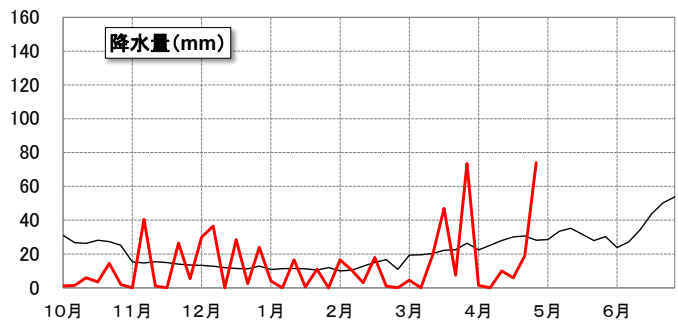
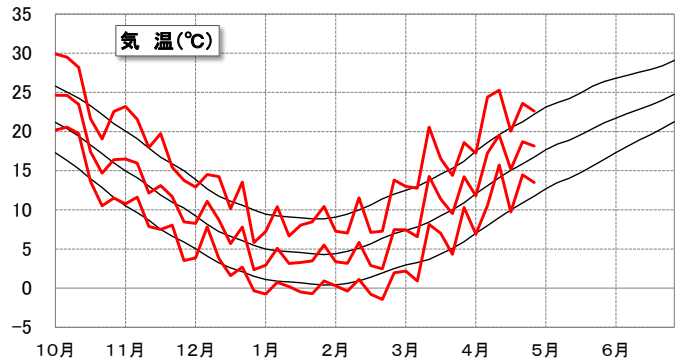
#### 岐阜地方気象台速報

3月下旬は、気圧の谷や湿った空気の影響により曇りや雨の日が多くなり雪となった日もあったが、高気圧に覆われて晴れた日もあった。平均気温は、岐阜は高く、高山はかなり高くなった。降水量は、岐阜は多く、高山は平年並みとなった。日照時間は、岐阜は少なく、高山は平年並みとなった。

4月上旬の前半は、気圧の谷の影響により曇りや雨で雷を伴った所があり、山地では雪となった所もあった。旬の後半は高気圧に覆われておおむね晴れとなった。平均気温は、岐阜、高山ともに高くなった。降水量は、岐阜はかなり少なく、高山は少なくなった。日照時間は、岐阜、高山ともにかなり多くなった。

4月中旬は、前線や気圧の谷の影響により曇りや雨となった日が多くなったが、高気圧に覆われて晴れとなった日もあった。また、旬の前半は暖かい空気におおわれた。平均気温は、岐阜はかなり高く、高山は高くなった。降水量は、岐阜は少なく、高山は多くなった。日照時間は、岐阜、高山ともに平年並となった。

2021～2022年 冬作半旬気象図(岐阜市)



< 平年：細線（黒）、本年：太線（赤）>

## 今後の気象予測

### ◆ 東海地方1か月予報 4月30日～5月29日までの天候見通し

名古屋地方気象台4月28日発表

暖かい空気が流れ込みやすいため、向こう1か月の気温は平年並か高い見込みである。1週目の気温は低く、2週目の気温は高く、気温の変動が大きい見込みである。

前線や湿った空気の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込みである。

週別の気温は、1週目は低い確率50%である。2週目は高い確率50%である。3～4週目は平年並または高い確率ともに40%である。

週別の天候見通しは次のとおりである。1週目の天気は数日の周期で変わるが、高気圧に覆われやすく、平年に比べ晴れの日が多い見込みである。2週目の天気は数日の周期で変わるが、前線や湿った空気の影響を受けやすく、平年に比べ晴れの日が少ない見込みである。3～4週目の天気は数日の周期で変わるが、前線や湿った空気の影響を受けやすく、平年に比べ晴れの日が少ない見込みである。

# 1 土地利用型作物

## ○水 稲

本年も4月10日に海津市であきたこまちの田植がスタートし、県内各所で育苗も行われるようになり本格的な稲作が始まっている。

寒暖の変動が大きいこの時期の育苗は、低温が気になる中山間、高冷地でなくても細心の温度管理が重要となる。寒さは苗に障害を起こす元凶であり、苗の出来不出来がその後の稲作に大きく影響するので注意する。

### (1) 育苗

- ①ムラのない十分な浸漬と鳩胸状態が明確な催芽処理を行う。
- ②出芽～緑化は30℃程度の温度と100%近い湿度を保ち、できる限り素早く生育させる。
- ③緑化～硬化は、昼間はなるべく高温を避け（早植や中山間では）夜間被覆する。
- ④硬化後半は、昼間・夜間ともに被覆物を開放し田植え（外気）に馴らす必要があるが蒸散量も多くなるため灌水に留意する。移植適期は、稚苗植えて2～2.2葉期である。

### (2) 代かき・移植・除草

#### ①代かき

移植時に（泥水の）排水を行うことのないように浅水（表土が30%程度見える）で代かきを行う。植代後（時）に散布する初期除草剤は「移植〇日前まで」の使用時期に注意する。

#### ②移植

- ・（原則的に）浅水管理による活着促進と（早生種を中心に）早期の茎数確保を図る。
- ・老化苗は植傷みが多く初期生育の確保も難しくなるため、適期に移植する。水稲作は「苗半作」と言われるが、活着力の旺盛な苗を、適期に（活着可能な平均気温に達してから）本田へ移植しないと、せっかくの苗づくりも無駄になってしまう。
- ・平均3～4本/株の植付本数とし、品種特性を考慮した栽植密度で移植する。
- ・植付け時に強冷風が予想される場合には移植を中止し、植付け後に低温・強風が懸念される場合は深水により苗を保護する。

#### ③除草

- ・除草剤は使用基準を忠実に守り、ある程度の水深を保つことができれば、効果は十分発揮される。
- ・普通期植や転作田等の前歴によっては、雑草の発生が早く多いことが予想されるので、より高い効果をねらって使用期間内の早限を目途に散布する。
- ・除草剤散布は、弱った苗には早い処理では影響を受け易いため、使用基準範囲の晩限近くで使用する。

### (3) 水管理

田植直後の湛水管理を終えると、根の活力維持のために落水と湛水を繰り返す水管理へと移る。硫化水素などのガスの排出や根の伸長を促し土に酸素を供給するための中干しなど、生育期間全般にわたる重要な作業である。育苗期及び本田移植初期は稲体が幼いため、高温または低温による障害を受けやすいが、育苗期はハウスの開閉や保温資材等により温度管理が可能であるため、温度計を設置して極端な高温や低温にならないよう努める。また育苗期間中に晴天が多くなる予報の時は、かん水のタイミング及びかん水ムラに十分に注意する。

表 1. 生育初中期の水管理

生育ステージ	水管理	摘 要
移植直後	やや深水	低温・強風時は特に深水
活着後	浅水更新	
分けつ期(移植 20 日後頃)	早期落水	作溝から滞水が消えるまで
分けつ盛期	間断灌水	3 日湛水 4 日落水
有効茎数確保後	中干し	足跡深 3 cm(やや強めに干す)

## ○麦 類

### (1) これまでの生育状況

近年は暖冬傾向で生育が進むことが多かったが、この冬（特に 1～2 月）は低温で推移、積雪も多かったものの飛騨地区を除いて出穂期は概ね平年並みとなっている。

### (2) 排水対策

ほ場に停滞する雨水は、根周辺に長く留まれば酸欠となり、出穂前では植物体の生育に、出穂後では登熟に影響する。そのため早めに溝の点検を行い補修しておく。

### (3) 赤かび病防除

赤かび被害粒は農産物検査では 0.0%（1 万粒中 4 粒以下）となっており、カビ毒も本年 4 月から 1.0ppm の含有基準値が設定（小麦）され、「売れる麦づくり」のため赤かび病の防除を徹底する。この病気は発生してから拡大を抑えることは極めて困難なため、予防が重要である。

①開花期に最も感染しやすい。

②出穂期～開花期に高温・雨天が続いた時に発生しやすい。

※出穂から開花までに要する日数は 7～10 日で、早く出穂したものほど多く日数を要する。防除のタイミング（特に遅れ）に注意する。

③「開花始期」と「その防除の 10 日後」の 2 回防除で予防する。

④刈り取り後の収穫物は、速やかに乾燥処理を行う。

## 2 野 菜 ～低温・高温・干ばつ～

5 月は 1 年の中で一番日射量が多く気温も日ごとに上昇していくが、ここ数年の 5 月の降水量は少なく平年より気温が 2℃ほど高く推移している。年によっては高温干ばつとなる場合があり、かん水施設がない畑、施設栽培でのかん水量不足によるしおれ、乾燥による生育不良や生育障害が発生している。このため、天候を十分に考慮して栽培管理を行う必要がある。

一方、中山間地域では 5 月中旬までは 5℃以下になる日もあるため、気象情報に十分に注意し対策を実施する。

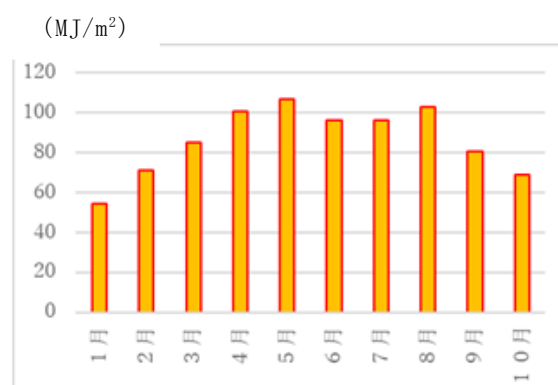


図 1. 月別日射量（アメダス名古屋）

## (1) 低温対策

### ①被覆資材の活用

ア. 果菜類の育苗は、地域の気象環境を考慮し、トンネル被覆資材での保温、電熱温床や暖房機による加温を行う。早朝に日照が強い日は、トンネル内の温度に留意し、苗が焼けないよう注意する。

換気時は、冷たい風が直接苗に当たらないようにするため、ハウスサイドにビニール等を設置する。

イ. 定植時では、サイドビニールの設置により活着を図る。

ウ. 露地栽培では、すでに定植を行っている場合は、被覆資材を活用し保温する。

## (2) 高温・乾燥対策

日射量が多くなるため、葉焼けによる障害や急激な気温上昇による高温障害や水不足、土壌の乾燥や地温上昇が発生するため以下の対策が必要となる。

### ①資材の活用

ア. 遮光資材（遮光カーテン、遮熱塗料）を利用し、ハウス内の温度上昇を抑制する。

イ. 地温上昇の抑制には、白黒ダブルマルチなどを利用する。

### ②換気

ア. ビニールハウス栽培等では、妻面の被覆資材を除去するとともに、屋根被覆資材をずり上げ、ハウス内の気温低下を図る。

イ. 育苗ハウスではハウス内の通路に散水し湿度保持と気温の低下を図る。

### ③かん水

ア. 曇雨天後に晴れ上がる日は萎れやすいので、早めのかん水を実施する。

イ. 土壌水分を管理し易くするため、かん水チューブを増やす。

### ④病虫害防除

ア. 葉害が出やすいので、高温時の薬剤散布は避ける。

イ. 葉先が枯れた場合、病害の発生源となりやすいので直ちに摘葉する。

## 3 果 樹

4月以降、寒暖差があったものの、平均気温は平年より高く推移しており、果樹の生育は概ね平年並み～やや早く推移している。4月30日時点の県内主要果樹主力品種の生育は以下の通りである。

かき「富有」の展葉期は4月6日で平年より1日早く、なし「幸水」の開花盛期は4月11日で平年より1日遅い。くり「丹沢」の展葉期は4月24日で昨年より3日遅く（平年値データはなし）、もも「白鳳」の開花盛期は4月23日で平年より5日早く、りんご「ふじ」の開花始期は4/26で平年より6日早くなっている。

例年5月上旬までは晩霜の心配があり、今後の生育進度は気温推移により日々変わってくる。今後の気象情報に注意しながら、晩霜対策、病虫害防除、摘蕾摘果等、適期に管理作業を進める必要がある。

表1. カキの生育相（農業技術センター：岐阜市）

品種	年度	発芽期	展葉期	開花期		
				始	盛	終
早秋	2022	3/7	4/2			
	2021	3/2	3/27	5/13	5/16	5/20
	平年	3/11	4/3	5/16	5/17	5/20
太秋	2022	3/13	4/6			
	2021	3/16	4/1	5/17	5/18	5/22
	平年	3/16	4/7	5/16	5/17	5/21
富有	2022	3/14	4/6			
	2021	3/7	3/30	5/17	5/18	5/22
	平年	3/15	4/7	5/18	5/19	5/22

※ 平年は2012～2021年の過去10ヶ年平均

表2. ナシの生育相（農業技術センター：岐阜市）

品種	年度	発芽期	出蕾期	展葉期	開花期		
					始	盛	終
幸水	2022	3/17	3/28	4/8	4/9	4/11	
	2021	3/10	3/18	4/1	3/31	4/3	4/12
	平年	3/13	3/26	4/8	4/7	4/10	4/17
あきづき	2022	3/15	3/28	4/7	4/7	4/10	
	2021	3/9	3/19	4/1	3/30	4/2	4/12
	平年	3/13	3/24	4/8	4/6	4/9	4/16

※ 平年は2012～2021年の過去10ヶ年平均

表3. クリの生育相（中山間農業研究所：中津川市）

品種	年度	発芽期	展葉期	雄花満開	雌花満開
丹沢	2022	3/30	4/24		
	2021	3/22	4/21	6/15	6/13
	2020	3/23	5/2	6/17	6/15
筑波	2022	3/28	4/24		
	2021	3/16	4/21	6/17	6/13
	2020	3/20	5/1	6/17	6/15

※移転した新支所(標高440m)の7年生樹の生育

表4. モモの生育相（中山間農業研究所：飛騨市）

品種	年度	発芽期	展葉期	開花期		
				始	盛	終
白鳳	2022	3/22	4/23	4/21	4/23	
	2021	3/15	4/22	4/18	4/21	4/27
	平年	3/25	4/28	4/26	4/28	5/4
川中島白桃	2022	3/24	4/25	4/21	4/24	
	2021	3/15	4/22	4/20	4/22	4/30
	平年	3/25	4/28	4/27	4/30	5/7

※ 平年は2012～2021年の過去10ヶ年平均

表5. リンゴの生育相（中山間農業研究所：飛騨市）

品種	年度	発芽期	展葉期	開花期		
				始	盛	終
つがる (つがる姫)	2022	4/1	4/12	4/26		
	2021	3/26	4/6	4/25	4/30	5/10
	平年	4/2	4/17	5/1	5/5	5/12
ふじ	2022	4/1	4/11	4/26		
	2021	3/27	4/5	4/25	5/2	5/10
	平年	4/3	4/16	5/2	5/6	5/12

※ 平年は2012～2021年の過去10ヶ年平均

## 4 畜産 ～高温対策～

### (1) 飼料作物

#### ① 灌水の実施

高温・少雨が続けている場合、灌水できるほ場では灌水を実施する。灌水量は、気象、土性、作物類によって異なるが、降水量を差し引いて1日当たり7～8mmを目安として、3～5日間隔で行う。また、灌水は土壤水分を補うとともに、地温の調節に効果がある。しかし、一時的な灌水は逆に干害を助長するので、灌水を始めたら次の降雨まで続けて行う。灌水できない場合は、刈草などで被覆を行い、地表からの土壤水分の蒸発や地温の上昇を抑える。

#### ② 早期刈取り

平地の早生トウモロコシやスーダン型ソルガムは、7月中下旬から収穫期となる。干ばつの影響を受け、茎葉の変色、葉枯れ、稔実不良が見られる場合は、早急に刈り取る。なお、早期に刈り取った場合は、飼料分析を行い適切に給与する。

#### ③ 高地のトウモロコシ・ソルガムの播種

耐干性に強い品種の選定を行う。なお、播種後1週間程度経過しても発芽しない場合は、圃場で調査を行ない、種子が膨れていない状態であれば早急に灌水を行う。

### (2) 家畜

飼育密度の緩和や、畜体等への散水・散霧により、家畜の体感温度の低下を図るとともに、屋根への散水や石灰塗布、寒冷紗等の設置、換気扇等による送風・換気により畜舎環境の改善を図る。また、良質で消化率の高い飼料及び清浄な冷水を給与し、ミネラル等の補給や、給与時間帯・給与回数を工夫することにより、飼料採食量の維持・回復に努める。